質問順位	8	質問者	関藤龍也 議員		
件名	項目	要 旨		メ	モ
1. 都市づくり	1. 人口減と高齢化について	1. 滝川市では、今後人口減少と超高齢社会が進行していくと予測されますが、社会基盤が十分に整備されていない地域では新たな道路整備、除排雪等が必要になると思われます。その一方で生産者人口の減少により、歳入の減少が続き、都市財政の縮小が進むと予測されますが、人口減少への対応と高齢者が暮らしやすい都市づくりをどのように進められるのか、市長の見解をお伺いします。			
		2. 人口減への対応施策として、以前から申し上げております外国人就労者を積極的に受け入れる特区自治体として、定住自立圏と合わせて進められて行くお考えはないかお伺いします。			
2. 経済対策	1. 中心市街地活性化について	1. 商店街に「人を歩かせ」、「引き込む」事業として商店街等賑わいづくり事業補助金に、100万円が計上されておりますが、具体的な事業計画が商店街から示されているのかお伺いします。			
	2. 観光行政について	1. 今年も菜の花まつりにはたくさんの観光客が訪れ、イベントの運営や来訪者への対応で、観光協会の役員・スタッフ、市職員におかれましては大変ご苦労があったと思います。しかし、これまでの観光事業はイベントが主流で、日帰り客が多く、入り込みの割には経済波及効果が乏しいのではないかと思います。滝川市における観光行政の課題は何かお伺いします。			

質問順位	8	質問者	関藤龍也 議員		
件名	項目	要旨		メ	モ
3. 市民活動	1. 市民税1%事業、市民報告会のあり方について	1. 市民活動推進のために、市民税1%事業が行われてきましたが、これを活用し、さまざまな事業が平成24年度に実施されてきました。その市民報告会が6月1日に行われましたが、市民に対する報告会ではなく、各実施団体の発表会になっていたのではないのでしょうか。貴重な市民の税金を活用して活動されたわけですから、市民に周知できる方法を検討すべきではないか、見解をお伺いします。			
4. 教育行政	1. 道徳教育について	1. 道徳教育の教科化について、教育長のお考えをお伺いします。			
		2. もし、教科化された場合、ほとんどの自治体が利用している「心のノート」を検定教科書とする見解が出されていますが、滝川市の現状と画一的教科書を利用することについて教育長の見解をお伺いします。			
		3. 教科化されることにより、評価をするという問題がでてきます。評価の方法として、数値化・記述式評価が検討されているようですが、どのような評価の仕方においても、先生が目に見えない心の評価を行うということは大変危険なことと思いますが、教育長の見解をお伺いします。			

質問順位	8	質問者	関藤龍也 議員		
件名	項目	要 旨		メ	モ
		4. 次に、指導者の問題です。以前一般質問でも取り上げましたが、教科化するということは、その教科の教員免許を有しなければなりません。下村文部科学大臣は、免許創設には否定的で、研修を受けることで指導できるようにするとの見解を示されましたが、教員の負担が更に増すことと、心の指導という難しい指導を学校だけに任せるのではなく、地域の人材から適任者を活用するという、以前私が提案したことについて再度見解をお伺いします。			
	2. 英語教育について	1. 小学生の英語指導教科化について、教育長の見解をお伺いします。			
		2. 教科化されることで、能力目標が明確化され、数値評価を受けることになり、「英語嫌い」が増すことも懸念されますが、国際化社会に対応するには、発達段階に応じた内容のカリキュラムを作る必要があります。現状の小学5年・6年生の指導はどのように行われているのかお伺いします。			
		3. 指導者についての対応はどのようになるのかお伺いします。			

質問順位	8	質問者	関藤龍也 議員		
件名		項目	要旨	メモ	
		4. J E Tの活用実態についてお伺いします。			
	3. パークゴルフ場について	1. 市民の健康増進、世代間交流を図るため、石狩川河川敷に8コース、72ホールのパークゴルフ場造成に向け、714万円の実施設計委託料が計上されておりますが、その目的は十分に理解いたしますが、利用者数とランニングコストのバランスについてどのように試算されているのか、人口が減少していく中で、今後負の遺産とならないのかお伺いします。			
	4. 総合福祉センターについて	1. 総合福祉センター閉館に伴い現在入居している9団体は、代替施設へ移転しなければなりません。これらの団体の中には滝川市民の安全、安心を守る重要な役割を持つ団体もあります。これらの団体に移転支援はあるのかお伺いします。			